

# 第12回小渋ダム土砂バイパスモニタリング委員会

## 議事要旨

日時：令和6年3月12日（火） 13:00～15:00

場所：ABO ホール（名古屋）501AB 会議室（Web 併用）

### 1. 開会

### 2. 開会あいさつ

（中部地方整備局 天竜川ダム統合管理事務所長）

### 3. 委員長あいさつ

### 4. 議事

#### (1) モニタリング委員会の概要

特に意見なし。

#### (2) 令和5年度バイパス運用報告

- ・ R2.7 出水後のバイパス休止期間中に限らず、常時、小渋ダムでは多くの土砂が流入して分派堰の堆砂が進行する特性を有している。小渋ダムの特性上、今後のバイパス運用時にも、呑口の堆砂の進行により、流量把握の課題が生じる可能性があることを認識しておく必要がある。
- ・ バイパス放流量の流量把握手法を工夫し、正確な流量把握に努めるとともに、コンジットゲートとバイパスゲートを併用して適切な洪水調節を実施していくことが重要である。

#### (3) 第11回土砂収支部会・第9回構造部会の報告

- ・ 小渋ダムでは、バイパス放流量の精度の幅を考慮し、ある程度柔軟な洪水調節手法を考えていくことも重要である。ダム貯水池への堆砂抑制の観点では、可能な限りバイパス運用ができるように、運用手法を引き続き検討いただきたい。
- ・ 小渋ダムでは、非出水期において、バイパスを運用できる可能性を確認できるように、実績の運用水位データ等を整理しておくが良い。
- ・ 呑口部機能改善対策では、捕捉する大粒径の粒径規模を明確にした方が良い。第三貯砂堰のスリット・維持掘削の形状等の対策によっては、対象としない粒径も捕捉されることが懸念されるため、構造上の工夫が必要である。
- ・ 大規模出水時の粒径に応じた摩耗・損傷への影響度を把握しておくが良い。

- ・ 「運用一時中断・監視基準（200mm 程度）」については、バイパス運用を一時中断する目的が明確となったので、今後、摩耗予測式がしっかり検証できた場合は、それに基づいて運用を考えていくことで良い。

#### (4) 第 11 回環境部会の報告

- ・ 水域については、環境の変化に応じた生物相になっている。一方、付着藻類は無機物量が多く、水域の環境が本来あまり良い状態ではないため、埋もれて確認できない情報もあることを念頭に置いておくことが重要である。
- ・ 水域と陸域のバランス、安定領域と攪乱領域のバランスが、当初想定していた以上に変化した。ダムで攪乱を抑制した新しい環境で生育している重要種の確認状況は、今後も把握していくことが重要である。
- ・ 河川水辺の国勢調査の環境基図等を活用して、植生全体の群落、植物等の増減を確認していくと良い。
- ・ モニタリングの本来の目的は、バイパス運用に対するモニタリングであり、川全体に対するモニタリングではないことに留意すること。
- ・ 下流河道では 100mm 以上の粒径も存在しているため、上流側で 100mm 以上を捕捉してしまうと、下流河道の河床で必要とする粒径のバランスも崩れる可能性もある。ダム上流で捕捉した土砂を、下流河道に還元するなど、環境面に配慮した対策を検討することも重要である。

#### (5) 今後の方針

- ・ バイパス運用計画、マニュアルなどは、委員に確認していただく予定とする。

## 5. 閉会

### 参加者

(委員)

- ・ 辻本委員長、猪股上席研究員、沖野委員、萱場委員、川崎委員、鈴木委員、角委員、戸田委員、瀬崎委員（WEB 参加）、藤田委員、溝口委員

【欠席者】鈴木委員

(オブザーバ)

- ・ 中部地方整備局 河川部 河川保全管理官 松原充幸
- ・ 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所長 吉田桂治

(事務局)

- ・ 尾畑事務所長、桑原管理課長、林専門職、寺沢技官